



東京薬科大学 2023年夏期公開講座

教員対象

—生命科学への誘い—

C3植物とC4植物のCO₂濃度応答性の比較

現在、大気CO₂濃度が急激に上昇し、温暖化など地球全体にさまざまな影響を与えています。陸上植物の葉の光合成では、CO₂が基質として使われています。現在の大気CO₂濃度の上昇は光合成をする植物にとってはどのくらい影響を与えるのでしょうか？CO₂濃縮機構があるC4植物と一般的なC3植物では、大気CO₂濃度の上昇の影響はどのくらい異なるのでしょうか？

本実習では、キク科 *Flaveria* 属のC3植物種 (*F. pringlei*) とC4植物種 (*F. bidentis*) を用いて、光合成速度のCO₂濃度の依存性の測定、葉の内部構造の顕微鏡観察、電気泳動法を用いたCO₂固定酵素の定量を行います。本実習を通して、光合成系の環境応答やそれを実現している形態的構造、またそれらの多様性に関する知識をより深めていただき、授業に役立てていただければと思います。

- 日時：2023年8月20日（日）
10時～16時
- 場所：東京薬科大学生命科学部
東京都八王子市堀之内1432-1
研究4号館・実習室2
- 申込方法：東京薬科大学HPより申し込んでください
<https://www.toyaku.ac.jp/lifescience/visitor/teacher-lifescience/index.html>



締切：2023年7月24日(月)

先着順 約12名

定員に達した場合はHPでお知らせします

問合せ先：

東京薬科大学 生命科学事務課

Tel: 042-676-8763

Email: seijimu@toyaku.ac.jp



*Flaveria*属植物のC4種(左)とC3種(右) 同じ環境下でも葉温が異なる



*Flaveria*属植物のC4種の葉のCO₂吸収速度の測定

* 諸般の事情により内容等が変更となる場合がございます。

開催の詳細はホームページからご確認ください。